

早稲田大学 人間科学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問4問の構成で設問数が多い点は昨年と同じ。設問自体も細かい知識や注意力を必要とし、政経の教科書レベルでは対応できない問題も多い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	国民主権 選挙制度 政党制	小問15問。日本国憲法の条文、選挙制度、政党制などバランスよく出題されている。	標準
II	市場機構 経済理論	文面を注意深く読み込まなければミスを誘いやすい問題もある。経済理論はやや難。	標準
III	アジア、中東の政治・経済・文化の動き	問4・問13など地理的な知識が必要とされる。政経分野の問題も基礎知識のみでは対応できない。時事問題も細かい部分が問われている。	難
IV	地方自治地方分権一括法	主要法令や政策の制定・実施の年度、内容は確実に押さえておく必要がある。	難

〔総合コメント〕

<p>問題数が非常に多く、設問内容も全体的に標準レベル以上のものが多い。確実な基礎知識に加え、さらに踏みこんだ詳細な知識を問う問題も見受けられる。国際政治、民族問題、環境問題などについては地理的や世界史の基礎知識も必要である。難問についても、あきらめず、前後の文脈からヒントを探し出すなどの冷静で粘り強い対応が大切ということか。</p>
